

東北の弁理士の雑感2(弁クの先生との思いがけない出会い)

野崎俊剛

前回の秋田の齋藤昭彦先生に続き、今回の記事は岩手の野崎が担当します。

私は、高校を卒業してから長らく東京におりましたが、7年ほど前にUターンで岩手の盛岡に戻り開業し細々と運営しています。

岩手県の特許出願件数は都道府県別でみてもとても少ないのですが、いいアイデアを持った企業や個人事業主は結構隠れています。知財活用の周知が不足しているせいか、県民性からか、いいアイデアを持っていても自ら表に出す人は少ないかもしれません。それを掘り起こすために岩手県のほぼ中央にある盛岡から県北、県南、沿岸地域へと車移動するのですが、面積が広いため2時間の打合せにほぼ一日を要することが多々あります。

岩手県内には、スピリチュアルなスポット(ちょっとした観光地?)があります。例えば、河童(カッパ)が出るといわれる所や、座敷わらし(ざしきわらし)が出るといわれる所などです。河童は水辺に住む精霊や妖怪として古くから語り継がれています。座敷わらしは子供の姿をした守り神(幸運を運ぶ精霊や妖怪として描かれていたりすることもあります)で、座敷わらしが居る家は栄えるといわれ、その存在や気配が幸運をもたらすと考えられています。

特許事務所の職員や弁理士会の委員会で知り合った方達で、観光という意味合い程度で座敷わらしに興味がある方達がおり、1、2年に一度、座敷わらしが出るといわれる旅館や場所に「座敷わらしツアー」と称して行くことがあります。集まる理由は何でもいいのですが、一応、座敷わらしが出るといわれる所ですので写真を撮ったりすると小さな光のオーブ(浮遊しているゴミの反射?、レンズの汚れ?)が映り込んでいることがあり、それなりに盛り上がります。一昨年と今年も「座敷わらしツアー」を行なったのですが、一緒に行ったメンバーの中に弁クのベテランの先生もいらっしゃいます。一昨年、私の知り合いの事務所職員だった方が「ツアーにもう一人連れて行っていい?」と言って連れてきた方がその弁クのベテラン先生でした。私の知り合いの事務所職員と弁クのベテラン先生は全く別の事務所なのですがどこかで知り合っていたようで、「東北の片隅のツアーで思いがけない弁クの先生との出会いもあるものだな。座敷わらしの力かな?」と驚きました。

ちなみに、今年泊まった旅館は、岩手県二戸市の金田一温泉にある「緑風荘」という宿です。首都圏からは遠いですが、岩手にお越しの際は一度「緑風荘」に行かれてみてはいかがでしょうか。座敷わらしに会えれば幸運が訪れるかもしれません。

